山梨県総合教育センター　令和5年度研究大会　　2024・2・27

# 「不登校の子どものこころとその支援」

奈良女子大学　伊藤美奈子

# 不登校と教育機会確保法

# 不登校に対する国の指針の変遷

～1980年代：不登校の増加（心の病気から教育問題へ）

1992年“どの子にも起こり得る”　“待つことの大切さ”

～2000年頃：不登校の多様化（教育問題から社会問題へ）

2003年“ただ待つのみではなく、正しいアセスメントに基づく適切な働きかけや関わりを”

2000年代以降：“不登校＝問題行動”ではない（教育機会確保法）

2016年：“不登校というだけで問題行動とみなさない”

“学習する権利（多様で適切な教育機会）の保障”

# 「問題ではない」と言われても

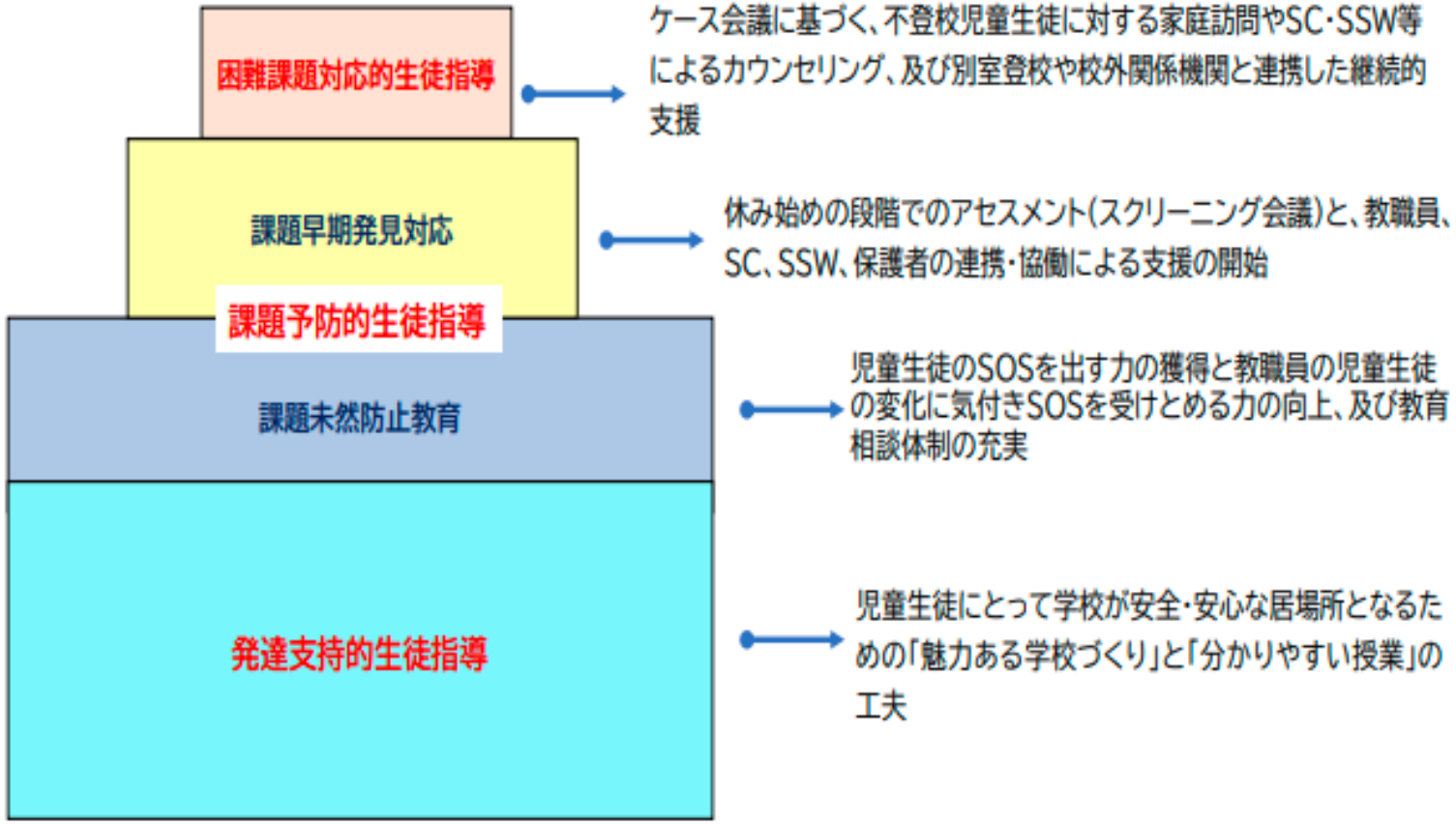
もちろん「問題ではない」と言われることで
　　ゆっくり休める子ども、ホッとする保護者もいる
しかし、「問題ではない＝そのままでいい・何もしなくていい」
　　という誤解もある
しかも、子どもや保護者の不安や心配は、完全には払拭されない

⇓

＜継続的支援＞＜進路の見通し＞は必要

# もう一つの変化

2022年12月に「改訂版生徒指導提要」が出ました




- 法的根拠の重視
- すべての子どもに
  発達支持的指導を
- チーム学校、
  多職種による連携
- 「させる」生徒指導か

  「支える」生徒指導

# 多様化する現代社会における不登校

「不登校」の背景にある多様な「問題」

友だちや教師との人間関係、いじめ、発達的な偏り、
学業の難しさ、部活動の悩み、精神病理、
性的マイノリティ、ゲーム依存、虐待、
貧困、ヤングケアラー　等々

⇓

複数の目によるアセスメントと
複数の手（多職種）による支援が必要

# 不登校の背景にある社会的要因

◇「登校すること」の自明性の喪失

学校復帰だけがすべてではない（登校↘）

学外での学びの場を増やす（学び↗）

◇不登校に対する「世間の目」

「確保法」により、やや緩和された？

とはいえ、まだまだ根強い偏見と

それに対する緊張や不安

# 不登校の子どものこころ

# 不登校の子どものこころ1

◇どうして行けないの？

理由は“よくわからない”　“簡単に説明できない”

だから“聞かないでほしい”　“追い詰めないでほしい”

（聞き方次第で、プレッシャーや非難に聞こえてしまう）

◇家族はどう思っているのだろう？

「学校に行かない私も認めて」・・・・・“母の肩の線”

# 不登校の子どものこころ2

◇親への一番の思い＝「わかってほしい」

↓↑

- 悩みの中身は一人一人違うし、簡単に言葉で説明できない（説明してくれない）ことが多い
- 行動や身体で表現するケースもある（行動化・身体化）
- 突っ張っていても、心の中では詫びていることも多い

詩『母親』より

# 不登校の子どものこころ3

◇学校の先生に求めること･･･“ロープの先”
引っ張り過ぎても困る、離されたらもっと困る
（関係を持ち続けることの大切さ）

◇行きつ戻りつを繰り返しながら
“まだ「まだら」だけど”という言葉
⇒「はしご」の外し方・外し時が大切
⇒たとえ“真っ白”にならなくても、
“不安を抱えながらの前進”もある

# 不登校と進路

# 支援のゴール「社会的自立」とは？

「社会的自立」も多義的な概念

- 「自立」⇔「依存」ではない

  自立とは･･･適切に依存できる対象や方法を増やすこと

- 「社会的自立」は最終ゴールであって

  学校で必要なのは「自立への一歩」

- 「社会的自立」の姿は、実に多様

  復帰や進学という形に縛られず、中・長期的に

  目指すべき生き方

# さまざまな学びの機会

＜学校内＞

別室や校内支援教室（高校ではまだ少ない）

＜学校外＞

教育支援センター（適応指導教室）

フリースクール

不登校特例校（学びの多様化学校）

＜進路は多様化＞

とくに通信制や昼間定時制は増加

高卒認定試験により大学への進学も可能に

# 最近の動向

いくつかの動向

◇来春より　不登校高校生に遠隔授業⇒単位の半数を取得可能に
（校長が認めれば、担当教員らの同時双方向の授業を
という条件付き？）

◇不登校特例校（学びの多様化学校）の増設
夜間中学校の認可も進むであろう

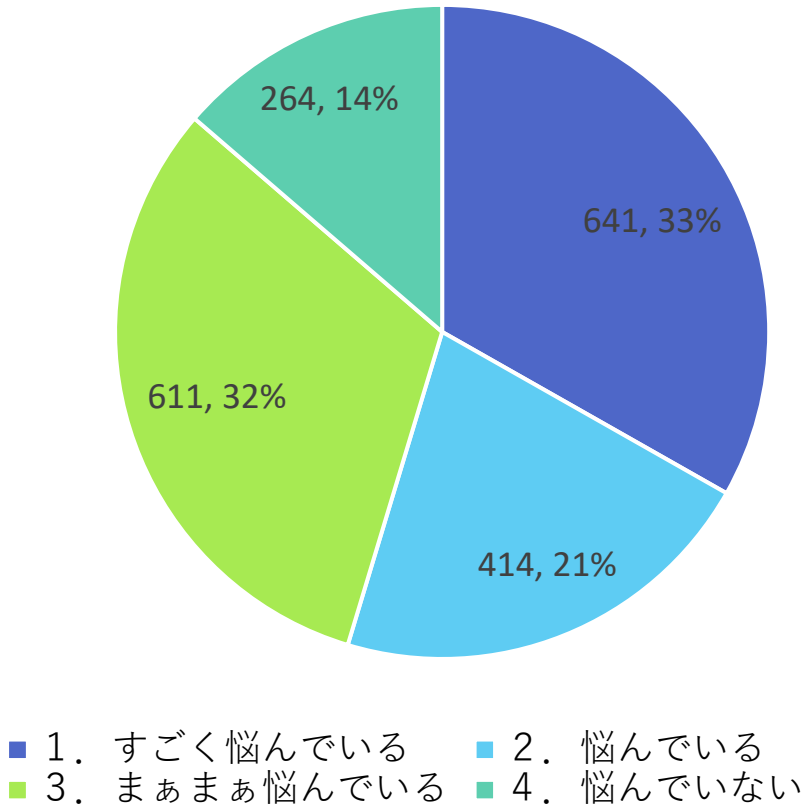
◇校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の増設

# 不登校の子どもを持つ保護者の思い

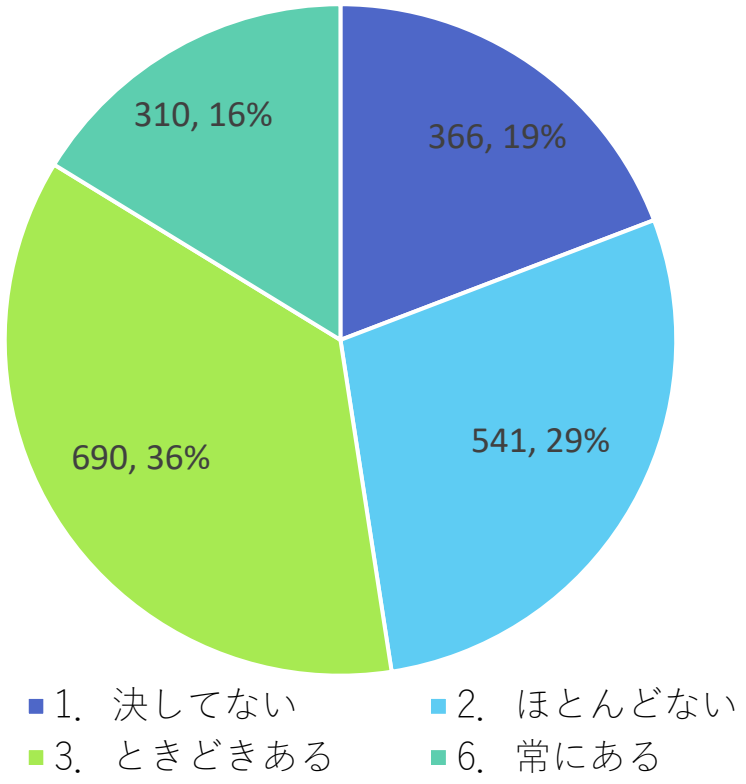
# 不登校を持つ保護者の気持ち

## 「こどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査2023」より

現在子どもへの対応または子どもの将来についてどれくらい悩んでいますか？




自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか？



# 「子どもを支える人」も支えられる大切さ

◇不安・苛立ち・悲しみを吐き出す

‥‥‥“あの子に裏切られた！”

☞

負の感情を、安心して安心な人に吐き出せる場

◇相談できる場や人の大切さ

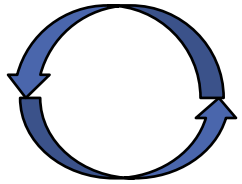
‥‥‥“お母さんにはカウンセリングに
行ってほしくなかった”

☞

子どものためだけでなく、保護者自身のために

# 保護者を支える意味

◇親に原因があるのでは決してないが、

親が変わる  子どもが変わる

円環関係

肩の力を抜く、視点を変える、
笑顔を取り戻す、SOSが出せる
（セルフコンパッションの大切さ）

※まず保護者が支援につながることの大切さ

# 今後に向けて

◇「支える人」を支えるしくみ

学級、学校、そして家庭を孤立化させない

◇不登校を“自分自身や将来のことを考えるため”の

ターニングポイントと考えることも大切

（しかし、苦しい道行を寄り添ってくれる

伴走者が欲しい）

# 参考図書

「学校」ってなんだ？
不登校について知る本
Gakken

不登校の理解と支援のためのハンドブック
多様な学びの場を保障するために
伊藤美奈子［編著］
ミネルヴァ書房

ご清聴、ありがとうございました。